

平成二十八年 度

入学試験問題

国語

注 意

- ・問題は十ページにわたって印刷してあります。
- ・試験時間は五〇分です。
- ・声を出して読むはいけません。
- ・答えは、問題の指示に従って、解答欄の決められた場所に濃く、はっきりと書きなさい。
- ・答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- ・答えはすべて別紙解答题紙に明確に記入し、解答题紙だけを提出しなさい。

1

次の問いに答えなさい。

問一 傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- (1) 参加者を募る。
- (2) 研究に埋没する。
- (3) 暫定的な計画にとどまる。
- (4) 経験に乏しい。
- (5) 片言隻語も聞きもらさない。

問二 傍線部のひらがなを漢字で書きなさい。

- (1) きんみつに連絡をとる。
- (2) 歓迎会をもよおす。
- (3) 人員をさくげんする。
- (4) ボートがてんぷくする。
- (5) 文化事業にたずさわる。

問三 傍線部の品詞名をア～コからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号は二回以上使わないこと。

- (1) 東の空に、星がきれいに輝いている。
- (2) まるで夢をみているような感じがした。
- (3) 勉強を終えて、それから遊びましょう。
- (4) 休まれている先生の病気が案じられる。
- (5) この先を曲がると、小さな橋が架かっている。

ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 名詞 オ 副詞
カ 助詞 キ 接続詞 ク 連体詞 ケ 助動詞 コ 感動詞

問四 次の意味の慣用句やことわざになるように、□にあてはまる漢字を答えなさい。

- (1) 冷淡な態度をとること。↓木で□をくくる
- (2) 人の体面をつぶすこと。↓□に泥をぬる
- (3) ないものはどうしようもないこと。↓ない□は振れぬ
- (4) 少しも手ごたえのないこと。↓のれんに□押し
- (5) うわさが立つのは何かしらその原因があるからだということ。↓□のない所に煙は立たぬ

2

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

ミサは中学の頃から電車通学だった。

行きはぎゅう詰めになる路線なので座るなんてあり得なかったが、帰りはタイミング次第では一緒に通学していた友達のマユミと並んで座れた。

どういうタイミングかという、掃除当番じゃないときだ。

そのとき駅まで歩いて掴まる普通電車が空いているギリギリで、その次の電車からだて前の駅から高校生がたくさん乗ってくるのもう座る余地はない。

最初のうちはどちらかが掃除当番だったら諦めていたが、そのうちどちらだったか気がついた。掃除当番じゃないほうが先に駅に行つて席を二人分取つておけばいい。そうしたら当番のほうが掃除を終わつて駅まで走れば二人とも座れる。

当番のほうは滑り込みになるので、取つておく席は必ず改札を通つて一番手前の車両の端っこ。

それからお互い、相手が掃除当番のときは先に駅まで走つた。二人がお気に入りの端っこの席を取つて待つておくために。

端の席に鞆を立てて、自分はその隣に背筋を伸ばして座る。ときどきわざと改札のほうを窺いながら鞆の把手に手をかけて、いかにも人待ち風情を見せて。

その様子が周囲の人々にどれほど賢しく見えていたのか。今でも思い出すと恥ずかしくて身をよじりたくなる。

「何をやってんねん、あんたは」

目の前に立つたおじいさんにいきなり詰られた。

あんたは、というのが自分のことだと気づかず、^①しばらくいつものように改札を窺つたりしていた。

「あんたや、あんた。座席に鞆座らせとるあんたや」

そこまで言われてようやく自分のことだと気づいて振り向いた。

頭の禿げ上がった小柄なおじいさんが、恐い顔で自分を見下ろしていた。

え、何。このおじいさん、あたしに言うてんの。何言うてんの。

その年頃特有の反射的な反感は、揺るぎなく自分を見据える怒りの眼差しに敢えなくぺしやんと潰れた。

「混んできとんのに何でその鞆を一人前に席に座らせとんねん」

「あ、あの、これは友達のお鞆で、友達が後から来るんです」

「そんなことが理由になるか！ その友達より先に乗つてはる人がぎょうさんおんのに、後から来るあんたの友達があんたが先取りしといた席にしれつと座るんか！ おかしいやろが！」

そんな大きい声で怒鳴らんといてや！ 周りに見られて恥ずかしいやんか！ 恥ずかしい——そう思つて周囲を見回してぎくりと身が縮んだ。

②うるさい老人に向けられていると思つていた非難の眼差しは、すべて自分に突き刺さつていた。

あんなに怒鳴られてかわいそうに、そんなふうにいる目は一つもなかった。俯いて肩を落としている自分が同情されて当然だと思つていたのに。あんな子供を大人げなく怒鳴りつけるなんてかわいそうにと老人のほう白い目で見られると思つていたのに。

白い目は容赦なく子供であるミサのほうに向けられていた。

それは周囲の人々が老人と同じ背立ちをミサに抱いているからだ、と気づかないほどには子供ではなかった。

恥ずかしい。注目を集めてしまったからではなく、注目を集めた理由が恥ずかしい。この車両に同じ学校の生徒は乗っているだろうか、クラスメイトは乗っているだろうか。

「と……友達が、掃除当番で疲れて帰ってくるから」

「やったらあんたが席替わつたつたらええやろが！ 言い訳すな！」

こんなことで言い訳をするほうが恥ずかしいなんてことはもう分かり切つていたのに、言い訳せずにはいられなかった。案の定喝破されて終わる。

誰も執り成してくれないことがミサに自分の立場を思い知らせた。

今までの自分たちの『名案』は、他人からは苦々しく思われる小賢しさだったのだ。

「お待たせ！ 席取つといてくれてありがとー」

異様な空気を読めないままにマユミが電車に乗ってきた。老人がマユミのほうを振り向く。

「あんたが友達か」

「えっ、何……」

マユミは戸惑いながらミサのほうに近づいてきた。

「ミサ、このジジイに何かされたん？」

小声で訊いたつもりだったが、マユミは地声が大きかった。

「何かしとつたのはお前らやるが、しょつちゆうしょつちゆう！」

老人が雷のような声を落とした。

「混んでる電車でみんな座りたいのに鞆座らせてまで連れの分の席取つて、どんな教育されとんじゃー」

えっ、ちよつとお。何よこのジジイ。マユミが唇を尖らせて言い返しかけたとき、

「どこの学校のカキどもやお前らは！ 言うてみい！」

学校に言いつけられる！ ミサはとつさに席を立つた。

「降りよ」

マユミに鞆を押しつけて、老人に頭を下げる。

「すみませんでした、これから気をつけます」

言い捨てるような口調で、だが一応は謝った。この辺りでマユミも自分たちに向けられて
いる白い目に気づいたらしい。不満そうな顔のままミサと一緒に頭を下げる。

逃げるように電車を降りて、ホームのベンチに座る。程なく発車のベルとともにドアが閉
まり、電車が走り始める。

ミサが取つてあつた席は、電車が走り出しても誰も座っていなかった。

「……絶対ホームから見えへんようになつたらあのジジイが座るんやで」

ふて腐れたようにマユミがコンクリの床を蹴った。

④「自分が座りたかつたから難癖つけただけやで、絶対」

そうじゃないのは二人ともたぶん分かつていた。

一方的にミサたちを怒鳴りつけていた老人。ミサたちに向けられていた白い目。

何かしつたのはお前らやろが、しよつちゅうしよつちゅうー

週に二度か三度はこんなことをやっていた。不愉快に思いながらミサたちを身覚えていた
乗客は、あの中にどれくらいいたのだろう。

へこんだ。

名案を思いついたつもりでいたのに、それはずるいことだところぴどく叱られた。他人か
ら、公衆の面前で。

あの老人が腹に据えかねて人前でミサを怒鳴りつけるほど二人は今まで目立っていて、そ
れもひどくみつともなく目立っていたのだ。

「絶対、自分が座りたかつただけやで」

マユミはまだふて腐れている。でもふて腐れている理由が分かる。

ミサも同じ理由でふて腐れていたからだ。

ふて腐れたポーズを取っていないと泣いてしまう。他人に怒られて恐かつたのと、周囲の
白い目が恥ずかしかつたのと、他人に叱られるまでその行いを恥ずかしいと思わなかつた自
分たちのバカさ加減が憎けないのと、——制服で学校が分かつて言いつけられるかもしれな
いという心配も少し。

ミサたちの名前まで分かるわけがないけれど、例えば朝礼なんかで「このような苦情が当
校にありました」なんて発表されたら内心の屈辱は想像を絶する。

「でも、今度からやめとこな」

ミサのほうから言った。

「またあんなふうに難癖つけられてもイヤやし」

そう付け加えると、マユミも無言で頷いた。

それがそのときのミサたちの精一杯の反省だった。別にあたしら悪いわけちゃうけどジジ
イがうるさいからもうやめといたるわ。

思春期の繊細さは自分たちの落ち度を髪の毛一筋ほども認めたがらない。

だが、心のどこかに確かにわだかまる^{つか}寂しさがその日から乗る車両を変えるようになった。

「サもアユも、もう荷物で乗り物の席を取っておくようなことはしなくなった。

そしていつの間にか、そんなことは非常識でみっともないことだと最初から知っていましたよというような顔をするようになっていた。あの老人に叱られて初めて知ったことだなんてお互い口にも出さず。

けれど、^⑤そんな顔ができるのはあの老人のお陰だと覚えていることもお互いが知っていた。

(有川浩『阪急電車』より)

問一 傍線部①「しばらくいつものように改札を窺ったりしていた」とありますが、いつものように改札を窺うのは何のためなのか。ア～エからもっとも適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 掃除が長引いてしまったために、ミサの到着がいつもより遅れていたため。

イ 混んできた電車内で、他の人にミサの分の席を取られる可能性があったため。

ウ すぐに来るはずの連れの到着を、今か今かと待っているように見せるため。

エ 心配している様子を見せることで、友達思いであることをアピールするため。

問二 傍線部②「うるさい老人に向けられていると思っていた非難の眼差し」について、「非難の眼差し」と同じ意味の表現をしている部分を本文中から探し、五字以内で抜き出しなさい。

問三 傍線部③「自分たちの『名案』」とは何ですか。「掃除当番」ということばを用いて、その内容をわかりやすく説明しなさい。

問四 傍線部④について、「そうじゃないのは二人ともたぶん分かっていた」にもかかわらず「自分が座りたかったから難癖つけただけで、絶対」と言ってしまうのはなぜですか。この年頃特有の性質を言い表した一文を傍線部④以降の本文中から探し、その最初の五字を抜き出しなさい。

問五 傍線部⑤「そんな顔ができるのはあの老人のお陰だ」とありますが、「そんな顔」について説明した次の文の i ii にあてはまることばを、それぞれ指定された字数にしたがって本文中より抜き出しなさい。

i (二十字以内) ことは、 ii (三十字以内) という顔。

3 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

生体を構成している分子は、すべて高速で分解され、食物として摂取した分子と置き換えられている。身体のあるゆる組織や細胞の中身はこうして常に作り換えられ、更新され続けているのである。

A、私たちの身体は分子的な実体としては、数か月前の自分とはまったく別物になっている。分子は環境からやってきて、一時、よどみとしての私たちを作り出し、次の瞬間にはまた環境へと解き放たれていく。

つまり、環境は常に私たちの身体の中を通り抜けている。いや「通り抜ける」という表現も正確ではない。なぜなら、そこには分子が「通り過ぎる」べき容れ物があったわけではなく、ここで容れ物と読んでいる私たちの身体自体も「通り過ぎつつある」分子が、一時的に形作っているにすぎないからである。

つまり、そこにあるのは、流れそのものでしかない。その流れの中で、私たちの身体は変わりつつ、かろうじて一定の状態を保っている。その流れ自体が「生きている」ということなのである。シエーンハイマーは、この生命の特異的なありように「動的な平衡」という素敵な名前をつけた。

ここで私たちは改めて「生命とは何か？」という問いに答えることができる。「生命とは動的な平衡状態にあるシステムである」という回答である。

B、ここにはもう一つの重要な啓示がある。それは可変的でサ^キステイナブルを特徴とする生命というシステムは、その物質的構造基盤、つまり構成分子そのものに依存しているのではなく、その流れがもたらす「効果」であるということだ。生命現象とは構造ではなく「効果」なのである。

サステイナブルであることを考えるとき、これは多くのことを示唆してくれる。サステイナブルなものは常に動いている。その動きは「流れ」、もしくは環境との大循環の輪の中にある。サステイナブルは流れながらも、環境との間に一定の平衡状態を保っている。

一輪車に乗ってバランスを保つときのように、むしろ小刻みに動いているからこそ、平衡を維持できるのだ。サステイナブルは、動きながら常に分解と再生を繰り返し、自分を作り替えている。それゆえに環境の変化に適応でき、また自分の傷を癒すことができる。

このように考えると、サステイナブルであることとは、何かを物質的・制度的に保存したり、死守したりすることでないのがおのずと知れる。

サステイナブルなものは、一見、不変のように見えて、実は常に動きながら平衡を保ち、かつわずかながら変化し続けている。その軌跡と運動のあり方を、ずっと後になって「進化」と呼べることに、私たちは気づくのだ。

シエーンハイマーは、それまでのデカルト的な機械論的生命観に対して、還元論的な分子レベルの解像度を保ちながら、コベルニクスの転換をもたらした。その業績はある意味で二

十世紀最大の科学的発見と呼ぶことができると思はる。

C、皮肉にも、このとき同じニューヨークにいた、ロックフェラー大のエイブリーによって遺伝物質としての核酸が発見された。そして、それが複製メカニズムを内包する二重らせんをとっていることが明らかにされ、分子生物学時代の**D**が切つて落とされる。

生命と生命観に関して偉大な業績を上げたにもかかわらず、シエーンハイマーの名は次第に歴史の塵に沈んでいった。

それと**E**を一にして、^①再び、生命はマイクロな分子パーツからなる精巧なプラモデルとして捉えられ、それを操作対象として扱おうという考え方が^{注2}ドミナントになっていく。必然として、流れながらも関係性を保つ動的な平衡系としての生命観は捨象されていった。

ひるがえって今日、外的世界としての環境と、内的世界としての生命とを操作しつづける科学・技術のあり方をめぐって、^②私たちは重大な岐路に立たせられている。

シエーンハイマーの動的平衡論に立ち返って、これらの諸問題を今一度、見直してみることは、閉塞しがちな私たちの生命観・環境観に古くて新しいヒントを与えてくれるのではなからうか。

F、彼の理論を拡張すれば、環境にあるすべての分子は、私たち生命体の中を通り抜け、また環境へと戻る大循環の流れの中にあり、どの局面をとっても、そこには平衡を保ったネットワークが存在していると考えられるからである。

平衡状態にあるネットワークの一部分を切り取って他の部分と入れ換えたり、局所的な加速を行うことは、一見、効率を高めているかのように見えて、結局は平衡系に負荷を与え、流れを乱すことに帰結する。

実質的に同等に見える部分部分は、それぞれが置かれている動的な平衡系の中でのみ、その意味と機能を持ち、機能単位と見える部分にもその実、境界線はない。

遺伝子組み換え技術は期待されたほど農産物の増収につながらず、臓器移植ははまだ決定的に有効と言えるほどの延命医療とはなっていない。ES細胞の分化機構は未知で、増殖を制御できず、奇跡的に作出されたクローン羊ドリーは早死にしまった。

こうした数々の事例は、バイオテクノロジーの過渡期性を意味しているのではなく、動的な平衡系としての生命を機械論的に操作するという営為の不可能性を証明しているように、私には思えてならない。

(福岡伸一『動的平衡』より)

(注1)「サステイナブル」……永続的な

(注2)「ドミナント」……支配的な、主要な

問一 A C F にあてはまる語句をア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ だから ウ しかし エ そして オ ところで

問二 D E にあてはまる漢字一字を、ア～カからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 杵 イ 幕 ウ 橋 エ 期 オ 機 カ 軌

問三 傍線部①「再び」とありますが、最初にあらわれたこのような考え方を、文中から十三字で抜き出さなさい。

問四 傍線部②「私たちは重大な岐路に立たせられている」とありますが、今日生命に対してどのような働きかけが行われているからですか。説明しなさい。

問五 あなたにとって、印象に残る世界的発見、出来事をあげ、その理由を述べなさい。

問一 波線部②、③の主語を、ア～オから一つ選び、記号で答えなさい。ただし同じ記号を二回以上使ってもよい。

ア 老尼 イ 博打 ウ 地蔵菩薩 エ ぢぢう オ 親

問二 我を率^ゑておはせよを、例にならって、すべてひらがなの現代仮名遣いに直しなさい。

例 いぢ給へ → いぢたまえ

問三 二重線部「地蔵の歩かせ給ふ道は、我こそ知りたれば、いぢ給へ、あはせ参らせん」について、

(1) そこから読み取れる博打うちの気持ちを表すことばとしてもつとも適切なものを、ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 親切 イ 功德 ウ 詐欺 エ 祝福

(2) その気持ちが行動としてあらわれた部分を八字で抜き出しなさい。

問四 傍線部①～③の意味を、ア～キから一つ選び、記号で答えなさい。

ア しばらくして イ すぐに ウ 数日後 エ 与える

オ 歩きなされる カ 受け取る キ いらつしやる

得点	
----	--

受験号	
氏名	

1

問一	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)
問二	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)
問三	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)
問四	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)

2

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	i
	ii

3

問一	A	B	C	F
問二	D	E		
問三				
問四				
問五				

4

問一	㉔	㉕	㉖	㉗
問二				
問三	(1)	(2)		
問四	①	②	③	

1

2

3

4

得点	
----	--

受験番号	
氏名	

1	問一	(1)	つる	(2)	るいぼつ	(3)	ぞんてい	(4)	とぼ	(5)	せき
	問二	(1)	緊密	(2)	僅	(3)	削減	(4)	転覆	(5)	携
	問三	(1)	ウ	(2)	ノ	(3)	キ	(4)	ク	(5)	ク
	問四	(1)	身	(2)	顔	(3)	袖	(4)	腕	(5)	火

① x 20

2	問一	ウ	④
	問二	白い目	④
	問三	④ 二人のうち、一俣、当春の白い方が、先に駅に行き、杖を置くことで、電車、座席を二人分取り、おぼ、二人とも座ることができると言う。④	
	問四	思春期の穢	⑤
	問五	I	荷物で乗り物、庫を取、てやく(う)
		II	特等車でみ、とも、小い、こと、だと、最初、知ら、 イ、マ、(ふ)

3	問一	A	イ	B	工	C	ウ	F	ア	②x4
	問二	D	イ	E	女					②x2
	問三	デカルト的、機械論的、生命観 ④								
	問四	農産物を畜収するに直伝子種交換、殺菌が用いられ、延命匠と一丁、殺菌種、行われ、さらに互に細胞による増殖の、衡が行。④								
	問五	問題、性質上、省略 ④								

4	問一	②	ア	⑤	イ	③	イ	④	才	②x4
	問二	わがまに、わがま								
	問三	(1)	ウ	(2)	急ぎ、取	取り、去	ぬ			②x2
	問四	①	イ	②	才	③	工			②x3

1 20

2 30

3 30

4 20